

平成22年度特定非営利活動に関する事業報告書

特定非営利活動法人ぽぴあ

第1 事業（活動）の成果

1 活動の概要

当ぽぴあにおいては、活動開始時からこれまで毎年度赤字を計上し、その結果として巨額の債務超過となり、活動継続の基盤となる財政が破綻寸前に瀕していたところから、平成22年度においては、ご利用者のための支援活動の破綻を避けるため、その再建を最優先課題としてこれに取り組みました。具体的には、単年度赤字の解消に取り組むとともに、平成21年度に緊急に調達した3,209万円（元利合計3,550万円の返済が必要）の運転資金の返済財源の確保に努めました。

その一方で、障害者就業・生活支援センターエールの新設等の新規の活動を開始したほか、ケア／グループホームの新設及び職員配置の充実並びに通所施設の職員の配置の充実等、従来から実施している活動の充実も図りました。

また、地域との連携を大切にし、積極的にネットワークの構築に努めました。

この他、新しい経理システムの導入、諸規程の整備等、内部体制の充実にも努めました。

（特別報告）東日本大震災に関する件

3月11日に発生した東日本大震災においては、幸いなことに人的、物的被害は全くありませんでした。また、その日のうちに就職者等遠隔地にいた者の所在確認、救出を完了することができました。

しかし、今回の経験を通じ、いくつかの課題が浮かび上がりました。

- 1 大津波警報が出されたため、津波の被害が想定されるぽぴあ自立活動センターそらいろ及び家族亭に避難指示を出そうとしましたが、通信が途絶したため、結局人を派遣して指示をする必要が生じました。

その背景には、津波警報発令時の対応が定められていなかったことがあ

りました。

- 2 就労者が各地にいましたが、交通機関や通信が麻痺したことからその所在を確認し、救出するために多大の時間と労力を必要としました。

なお、これに関しては特に指示をする前に多くの職員が自発的に対応し、考え、行動していました。

- 3 大震災が発生した場合の対策本部の設置、職員の集合場所、避難場所の指定等の対策が全くできていませんでした。

- 4 数日間全員が生き延びるだけの備蓄がなされていませんでした。

これらの課題については、早急に対応する必要があります。

2 活動の詳細とその成果

各活動の具体的な実施状況とその成果は、それぞれ以下のとおりです。

(1) 財政の再建

平成22年度は、財政再建を目指し、次のような対策を実施しました。

- ・ご利用者の積極的な受入れ
- ・体制の工夫、サービスの改善等による増収対策
- ・補助金、助成金の活用対策

その結果、次のとおり単年度において始めて黒字を計上し、債務の一部を圧縮することができました。

(単位：千円)

平成22年度当初の純資産	△ 50,361
平成22年度の資産増減額	+ 25,721 内訳 一般会計 23,449 特別会計 2,273
平成22年度末の純資産	△ 24,640

注 上表において一般会計とあるのは特定非営利活動に係る事業会計を、特別会計とあるのは、その他の事業会計を指します。

(2) 新規活動の開始

平成22年度においては、次の新規活動を開始しました。

① 障害者就業・生活支援センターの開設

4月に障害者就業・生活支援センターエールを開設しました。

平成22年度は最初の年であるにもかかわらず、職員の努力で年間の就職者が当初の目標10名を上回る、14名に上りました。

② ケア／グループホームの開設

- ・ フレンズ姉崎の開設（平成22年4月）
4月にフレンズ姉崎を開設しました。
定員5名、男性向け、一体型で、年度末現在満室状態です。
- ・ 蔵波台の家の開設（平成22年4月）
4月に蔵波台の家を開設しました。
定員4名、女性向け、一体型で、年度末現在満室状態です。
- ・ 祇園の家の開設（平成22年12月）
12月に祇園の家を開設しました。木更津市に設置した初めてのケア／グループホームです。
定員3名、男性向け、一体型で、年度末現在満室状態です。
- ・ ふるさとの家の閉鎖（平成22年11月末）
家主さんの都合により、11月末をもってふるさとの家を閉鎖しました。
定員は4名でした。ご利用者4名は、他のホームに移りました。

(3) 従来から実施している活動の充実

平成22年度においては、財政再建を進める中、次の諸施策をも実施し、従来から実施している活動の充実を図りました。

① ケア／グループホームの職員配置の充実（平成22年12月）

12月から、世話人の配置をご利用者6人に1人の体制から、4.5人に1人の体制に移行しました。これにより、休日の職員配置の充実等が図られました。

② ケア／グループホームの防災対策（平成23年1月～3月）

障害者自立支援基盤整備事業補助金を活用し、1月から3月にかけて、連動型火災報知機及び自動火災通報装置（消防署、特定の職員宛）を全てのケア／グループホームに設置しました。

③ 地デジ対策の実施（平成23年1月～3月）

総務省の制度を活用し、全てのケア／グループホームのアンテナの地

デジ化を実施するとともに、全ての部屋にデジタルチューナーを設置しました。これにより、ご利用者はテレビを買い換えることなく地デジを楽しめるようになりました。（ケーブルテレビを利用して対応が必要ない場合を除きます。）

④ 通所施設の職員配置の充実（平成23年1月）

平成23年1月から、就労継続支援事業所の職員配置をご利用者10名に対して1名の体制を、ご利用者7.5人に対して1名とする体制に変え、支援の充実を図りました。

対象事業所

- ・就労継続支援A型事業所 ライズ
- ・就労継続支援B型事業所 スマイル、そらいろ

(4) 内部体制の充実

平成22年度においては、次の諸施策を実施し、内部の体制の充実を図りました。

① 新しい経理システムの導入（平成22年9月）

これまで使用していたソフトでは、事業所別の処理ができない、事業所をまとめたグループでの処理ができない、資金収支の計算ができない、といった課題がありました。一方において市販のNPO用ソフトではぽびあの複雑さと規模に対応できない、株式会社用や社会福祉法人用のソフトでは、ぽびあの要請に応えられないといった課題がありました。

このため、長い間、事業ごとの活動収支（損益）が分からない、資金繰りがうまくできないといった状況に悩まされ続けてきました。

そこで、平成22年度においては、社会福祉法人会計用ソフトを基礎にしてぽびあの経理の要請に応えられるものに改造することとし、これを発注、導入しました。

平成22年度は、半年遅れの経理処理を年度末までに追いつくことを目標に処理を進めてきましたが、平成23年度は、このシステムを最大限に活かした経理処理を行えることが期待できます。

② 諸規程の整備（経理、災害対策）

平成22年度においては、次の規定を整備しました。

- ・ 経理規程、経理規程細則、月次決算要領
- ・ 旅費支給規程
- ・ 車両運行規程

③ 研修の充実

あらゆる機会をとらえて、職員の研修を実施しました。また、多くの職員が積極的に研修に参加し、また必要な資格の取得に努めました。

なお、グループホームの世話人研修は、思うように実施できなかったため、来年度は毎月実施することとします。

④ 委員会活動の充実

職員は、必ず何らかの委員会に所属して活動することとされており、平成22年度においても各種の委員会活動が活発に展開されました。

今後の大きな課題として、選択食の導入があります。

⑤ 地域連携の充実

平成22年度においては、近隣の特別支援学校からの実習生を多数受け入れることができました。また、校内実習のための作業の確保についても応援をすることができました。ご利用いただいた特別支援学校に感謝します。

各方面からの見学も多数に上りました。

代表、施設長等による研修会等の講師の要請も多方面からあり、喜んで参加させていただきました。

各種協議会、委員会、審査会等にもできる限り積極的に参加させていただいています。

また、地域づくりフォーラムについては、特に力をいれて参加しています。

この他、袖ヶ浦市社会福祉行議会が主催する福祉フェスタ、福祉施設や地域のお祭り等には積極的に参加し、出店の依頼には喜んで参加させていただきました。

(参考)

ぽびあの職員が委員長等を務めている委員会等

- ・ 袖ヶ浦市地域自立支援協議会

- ・障害程度区分審査会
- ・千葉県相談支援事業連絡協議会
- ・君津圏域グループホーム等連絡協議会

(5) できなかった施策

次の施策については、実施できませんでした。体制の充実を図り、今後は実施できない施策のないようにしていきたいと思えます。

① 家族会の設立

支援の質の向上を目的とする家族会の設立は、平成22年度も実施できませんでした。平成23年度の課題とします。

② 第三者委員会の設置

開催の準備中に東日本大震災が発生したこともあり、平成22年度は実施できませんでした。平成23年度の課題とします。

(6) 活動の成果

以上の活動による成果は、次のとおりです。(平成23年3月末)

① ぽびあホーム利用状況

ホーム名	定員	利用者数	参考事項
浜宿の家	5	5	
のぞみ野の家	5	5	
坂戸市場の家	5	5	
すまるの家	4	4	
蔵波の家	7	7	
ドレミの家	5	5	
久保田の家	4	4	
フローラの家	4	4	
駅前の家	5	5	
たんぽぽの家	6	6	
やまゆりの家	6	5	空室1
いちごの家	6	6	
びわの家	6	6	
蔵波台の家	4	4	
フレンズ姉崎の家	5	5	
祇園の家	3	3	
合計	80	79	

② ほぴあ自立活動センターふれあ

種別	定員	空き	参考事項
生活介護	18	18	
自立訓練	10	4	空き6名
合計	28	22	

③ ほぴあ自立活動センターそらいろ

種別	定員	空き	参考事項
就労継続B型	20	20	
合計	20	20	

④ ほぴあ仕事センターキャリア

種別	定員	空き	参考事項
就労移行支援	10	12	2名過員
就労継続B型	18	20	2名過員
就労継続A型	12	8	空き4名
合計	40	40	

⑤ 地域生活支援（ゆう）

現在利用者数	移動	87
	通院	72
	入浴	3
	その他介護	2
	知的	91
	自閉	13
	精神	4
	身体（目、耳）	1
	身体（一般）	
	18歳以上	90
	中・高校生	2
	小学生以下	4
	ほぴあホーム	72
	他法人ホーム	
	入所施設	3
	在宅	21

⑥ 相談支援

訪問相談件数	1 0 5
来所件数	4 6
電話相談件数	7 2 7
他機関連絡調整	3 6 5
計	1, 2 4 3

⑦ 障害者就業・生活支援

就業支援						
支援対象者 登録者数		身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
	在職中	3	1 9	6	0	2 8
	求職中	9	7	1 3	1	3 0
	その他	1	1 3	7	1	2 2
	合計	1 3	3 9	2 6	2	8 0
相談支援件数		身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
		2 1 1	7 2 7	4 5 4	4 0	1,432
就職件数		身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
		3	7	3	1	1 4
職場実習件数		身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
		2	1 1	4	0	1 7
職場定着支援件数		身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
		3	1 3	1	0	1 7
職場定着支援実施件数		身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
		9	1 0 3	1 3	0	1 2 5
生活支援						
支援対象者登録数		身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
		1 3	3 9	2 6	2	8 0
実支援人数	電話	家庭訪問	職場訪問	来所	他機関訪問	その他
	1 3	2	6	1 1	3	3 5
支援延回数	電話	家庭訪問	職場訪問	来所	他機関訪問	その他
	4 6	4	1 2	2 2	4	8 8

(7) その他

① 余暇支援

ぽぴあのお客様のご利用者や地域の障害者に楽しみを提供することを目的として、次の行事を実施し、あるいは参加を支援しました。

4月 4日	東京都千葉福祉園お花見会参加者支援、出店
5月10日	バスハイク（ドイツ村）
7月16日	夏祭り（九十九里真亀海岸、地引網）実施
7月31日	袖ヶ浦市民ふれあい夏祭り（ドイツ村）参加者支援
10月 3日	東京都千葉福祉園祭り参加者支援、出店
10月10日・11日	就労者一泊旅行（東部ワールドスクエア、江戸村）
10月17日	袖ヶ浦福祉センター祭り参加者支援、出店
11月18日・19日	全体一泊旅行（横浜ブルーシア、八景島）

② 総会、役員会の実施

○ 総会の開催状況

実施日時	種別	主な付議事項
平成22年5月23日	第19回 通常総会	平成22年度事業計画、予算の補正 平成21年度事業報告、決算報告 役員を選任 収益事業の利益処分 監督官庁への報告
平成23年3月19日	第20回 通常総会	平成23年度事業計画、予算 定款変更 事務局組織 平成23年度借入金限度額 理事長・副理事長による連帯保証の件 【参考】ぽぴあ仕事カンパニー経営の件

○役員会の開催状況

実施日時	主な付議事項
平成22年4月18日	近況報告、通常総会招集、通常総会議案項目、処遇改善一時金支給規程の改正
平成22年5月16日	近況報告、通常総会提出議案、障害者自立支援臨時特例交付金の件

平成22年9月26日	近況報告、車両購入の件（軽車両3台）、経理規程の制定、旅費規程の制定、車両運行規程の制定
平成22年12月10日	近況報告、相談協議事項、役員忘年会
平成23年 1月30日	近況報告、通常総会招集、通常総会提出議案項目、通常総会提出議案の概要に関する相談
平成23年 3月12日	近況報告、総会提出議案、連帯保証に関する件、子会社の経営に関する件、子会社との賃貸借契約、運転資金の借入

第2 各事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)	
障害者就業・生活支援センターエール	障害者就業支援	通年	君津圏域	2	80	11,552	
	障害者生活支援	通年		2	80	6,103	
ぽびあ地域生活相談支援センターもえ	指定相談支援	通年	市内及び近隣	1	10	2,775	
	相談員派遣(袖ヶ浦市相談支援事業所)	通年		1	300	972	
ぽびあ訪問支援センター ゆう	居宅介護/重度訪問介護	通年		13	80	11,731	
	移動支援	通年		13	80	3,751	
	有償運送	通年		13	80	255	
ぽびあホーム	共同生活介護/共同生活援助	通年		県内	45	80	111,328
ぽびあ自立活動センターふれあ	生活介護	通年		市内及び近隣	6	18	18,425
	自立訓練(生活訓練)	通年			3	10	9,479
	日中一時支援	通年			9	1	—
ぽびあ自立活動センター そらいろ	就労継続支援B型	通年	5		24	16,878	
	日中一時支援	通年	5		0	—	
ぽびあ仕事センター キャリア	就労移行支援	通年	6		10	12,490	
	就労継続支援A型	通年	6		12	15,081	
	就労継続支援B型	通年	6		18	12,945	
	日中一時支援	通年	6		2	36	
その他の事業	余暇活動支援	通年	市内及び近隣		100	500	358
	日常生活支援	通年		100	10	—	
	障害者支援団体支援事業	通年		6	20	—	
	普及啓発事業	通年	県内	100	400	55	
	千葉県官公需受注窓口事業	通年	県内	1	100	—	

注 支出額について「—」となっているものは、他の経費に含まれているもの。

平成22年度その他の事業報告書

特定非営利活動法人ぽぴあ

1 事業の成果

(1) 生活消費財の生産、加工及び販売並びにこれらの請負

生活消費財の生産、加工及び販売並びにこれらの請負については、本年度は事業を行いませんでした。

(2) 飲食店及び食堂の経営

家族亭は、昼は定食の店として、夜はお酒を楽しむ店、手軽に宴会ができる店として多くのお客様に愛されています。

平成22年度は、本格的なカラーのメニューを作成しました。

本年度の飲食店（家族亭）の年間の売上げは約4,653万円で、前年度に比べて370万円、率にして8.6%の増加でした。

また、当期純利益は238万円、売上に対する利益率は4.9%でした。

2 事業の実施にかかる事項

事業内容	実 施 日 時	実 施 場 所	従事者の 人 数	収 入 額 (千円)
○飲食店（家族亭） の経営	年間	袖ヶ浦市	10	46,528